【注意】発行当時の原稿をそのまま掲載しております。農薬について記載のある場合は、最新の農薬登録内容を確認し、それに基づいて農薬を使用して下さい。また、成果情報によっては、その後変更・廃止されたものがありますのでご注意下さい。

［成果情報名］果実外観に優れる四季成り性イチゴ新品種「山形Ｓ７号」
［要　　約］四季成り性イチゴ新品種「山形Ｓ７号」は果実外観に優れ、収量性が高い。「サマーティアラ」と比較して障害果の発生は少なく、高温期の果実硬度が高い。
［部　　署］山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課・産地研究室
［連　絡　先］TEL　0234-91-1250
［成 果 区 分］普
［キーワード］イチゴ、四季成り性、新品種、「山形Ｓ７号」、果実外観、収量性

［背景・ねらい］

本県のオリジナル四季成り性イチゴ品種「サマーティアラ」は、食味に優れるものの、鶏冠果や夏季高温による種浮果等の障害果の発生により収量が低く、新たな品種が望まれている。そこで、収量性が高く、果実品質に優れる新たな品種を育成する。

［成果の内容・特徴］

1　育成経過

平成 24 年度に「サマーティアラ（庄内産地研究室育成）」を種子親、「なつじろう（地方独立行政法人　北海道立総合研究機構育成）」を花粉親として、交配により得られた実生から、平成 26 年度に優良系統として選抜した。

2　特性概要

（１）草姿は立性で、草勢はやや強い。果実は円錐形でツヤがあり、外観が優れる。そう果の落ち込みは「サマーティアラ」より深い（表１、図１、２）。
（２）3 月に定植した場合、6 月から収穫が可能で、11 月下旬までの 10ａ換算商品収量は 4.5ｔである（表２）。
（３）鶏冠果や種浮果等の障害果の発生は、「サマーティアラ」より少ない（表３）。
（４）高温期（7～9 月）の果実硬度は、「サマーティアラ」より高い（表４）。
（５）現地試験における 10ａ換算商品収量は、鮭川村で 2.9～3.2ｔ、酒田市で 3.6～3.9ｔである（表５）。

図１　草姿（撮影：R4/7/4）

図２　果実外観

［成果の活用面・留意点］

1　庄内産地研究室（酒田市）、酒田市及び鮭川村の現地で試験した結果である。
2「サマーティアラ」と同様の給液管理で栽培した場合、夏以降草勢の低下が見られるため、花房管理（着果制限）と併せて給液ＥＣを調整する等、草勢維持に努める。
3　令和 4 年 12 月の園芸作物奨励品種決定調査検討会で普及性が高いと評価され、令和 5 年 1 月の職務育成品種登録審査会を経て、令和 5 年 3 月に品種登録出願した。
4　関連する既往の成果（新しい技術の試験研究成果）
　平成 28 年度　研究成果情報「いちご四季成り性有望系統「砂丘Ｓ７号」の特性」（政）
　令和 4 年度　　〃　「四季成り性イチゴ新品種「山形Ｓ７号」の品種識別技術」（研）

［具体的データ］

表1　草姿・草勢および果実形質[z)]　（R2、R3庄内産地研究室）

品種	開花始期(R3/5/24) 草姿	草勢	果形[y)] たて (mm)	よこ (mm)	たて/よこ	果形	果皮色	果肉色	果心の色	そう果の落ち込み	光沢	空洞
山形S7号	立性	やや強	41.1	36.8	1.12	円錐形	橙赤	淡桃	淡赤	中	中	無又は小
サマーティアラ	立性	やや強	40.0	33.3	1.20	円錐形	赤	赤	赤	小	中	中

z)農林水産省いちご属審査基準に基づき判断　　y)たて：へた基部から先端の長さ　よこ：最も幅が広い部分の長さ　第1花房の2,3番果調査

表2　商品収量　（R3、R4庄内産地研究室）　　R4：1区8株2反復、R3：1区8株3反復調査

年次	品種名	定植日 (月日)	収穫開始日 (月日)	収穫終了日 (月日)	商品収量[y)] 6月 (g/株)	7月 (g/株)	8月 (g/株)	9月 (g/株)	10月 (g/株)	11月 (g/株)	合計 (g/株)	10a換算 商品収量 (t/10a)	平均 1果重 (g)
R4	山形S7号(花房管理)[z)]	3/22	6/8	11/22	83	167	140	154	140	89	774	4.5	11.8
	山形S7号				86	181	157	51	180	82	737	4.3	11.1
	サマーティアラ				71	130	90	71	85	99	548	3.2	12.4
R3	山形S7号	3/23	6/3	11/29	133	122	71	91	98	52	566	3.3	11.8
	サマーティアラ				92	83	6	79	62	37	360	2.1	12.2

z)株当たり花房数を3本、1花房当たり果実数を3果に制限した(6/27～8/23)
y)「サマーティアラ」出荷規格で区分した秀品(果形が良く整ったもの7g以上28g未満)及び丸秀品(鶏冠果の軽微なものを含む)
※給液EC；R3は0.3～0.6dS/m、R4は9/25までは0.3～0.6dS/m、 9/26以降は 1.0dS/m、10/13以降は1.3dS/mで管理した。
※クラウン冷却；R3はクラウン冷却実施せず、R4は6/21～9/20までクラウン冷却を実施した。

表3　障害果の発生割合　(R3,R4庄内産地研究室)

年次	品種名	鶏冠果 (%)	種浮果 (%)	受精不良果 (%)	先詰果 (%)	先白果 (%)	その他[z)] (%)
R4	山形S7号	0.4	0.1	5.8	0.0	0.3	0.9
	サマーティアラ	4.6	7.7	6.0	0.3	1.0	0.3
R3	山形S7号	0.7	0.1	5.0	0.3	0.1	0.0
	サマーティアラ	5.8	11.9	5.1	0.1	0.7	0.5

※株当たり総収穫個数に対する株当たり個数割合　　z)病害虫被害果、みぞ果等

表4　果実品質　(R3,R4庄内産地研究室)　　10果/月調査

年次	品種名	硬度[z)](kg/3mm φ) 6月	7月	8月	9月	10月	11月	糖度[y)] (° Brix)	酸度[x)] (%)	糖酸比
R4	山形S7号	0.30	0.32	0.32	0.35	0.29	0.29	7.6	0.78	9.7
	サマーティアラ	0.29	0.19	0.27	0.27	0.24	0.29	8.6	0.85	10.1
R3	山形S7号	0.30	0.32	0.40	0.40	0.39	0.35	7.3	0.75	9.8
	サマーティアラ	0.23	0.28	0.31	0.38	0.39	0.41	8.5	0.83	10.2

z)藤原果実硬度計KM-1(針頭：円筒形、3mm径、10mm高)で測定　　y)ATAGO PR-101で測定 、6～11月の平均値
x)定酸度クエン酸換算値(採取果汁1ml、0.1N-NaOH(1ml=0.0064gクエン酸)で滴定)、6～11月の平均値

表5　現地試験における商品収量(R3, R4)　　10株調査

場所	年次	品種名	定植日 (月日)	収穫開始日 (月日)	収穫終了日 (月日)	商品収量[z)] 6月 (g/株)	7月 (g/株)	8月 (g/株)	9月 (g/株)	10月 (g/株)	11月 (g/株)	合計 (g/株)	10a換算 商品収量 (t/10a)	平均 1果重 (g)
鮭川村	R4	山形S7号	3/9	6/20	11/20	89	168	116	82	109	129	693	3.2	13.6
		サマーティアラ				32	100	104	90	148	148	621	2.9	15.4
	R3	山形S7号	3/17	6/15	11/18	66	266	42	81	116	46	618	2.9	10.9
		サマーティアラ				58	85	35	48	177	101	503	2.3	11.8
酒田市	R4	山形S7号	3/4	6/8	11/20	261	108	78	98	78	36	659	3.9	9.5
	R3	山形S7号	3/18	6/3	11/22	151	115	84	58	177	29	614	3.6	10.3

z)表2に準じる　　栽培方法：現地慣行、株間：鮭川村30cm、酒田市25cm

【栽培概要】（産地研究室）
栽培様式：間口 7.2m、うね幅 144cm、株間 24cm、2 条千鳥植え（5,787 株/10a）
　　高設栽培、プラスチック栽培槽、養液栽培、培地：ヤシ殻
株管理：定植から 1 か月程度花房摘除し、最初に発生する花房の頂果は摘除した（共通）
　　6 月下旬に 2,3 芽に整理し、着果～収穫中の花房を最大 2 本残し、それ以外の花房摘除。
遮光：（R3）6/2～8/23 までハウス屋根面に遮光資材（ｼﾙﾊﾞｰ：遮光率 50%）常時展張。
　　（R4）6/22～9/21 までハウス屋根面に遮光資材（白：遮光率 30%）常時展張。
　　（R3,R4 共通）晴天日には日中ハウス内に遮光資材（白：遮光率約 50%）展張。

［その他］

研究課題名：第 3－2 期いちごオリジナル新品種の開発
予 算 区 分：県単　　研究期間：令和 4 年度（平成 30～令和 4 年度）
研究担当者：五十嵐美穂、藤島弘行、山崎紀子、小松佳奈、上田七瀬、伊藤聡子、伊藤政憲
発表論文等：品種登録出願（令和 5 年 3 月）